

ニッポン発二一世紀オリジナル

く 鉱脈としての日本長寿社会く

堀 亜起良

元『知恵蔵』編集長 堀内正範

はじめに

世界の宝石鉱脈としての日本

ニッポン発二一世紀オリジナル

鉱脈としての日本長寿社会

堀 亜起良

元『知恵蔵』編集長 堀内正範



はじめに

世界の宝石鉱脈としての日本

はるか遠い日に、東に向かった文化の波は漢・韓を通じて日本に達して開花し、西に向かった技術の波はローマ・西欧・米国を経てはるか遠い日本に至って開化した。

漢字かなカナローマ字混じりの日本語は世界の文化を総合し、衣・食・住の日用品のありようは世界の技術の統合を示している。

その仔細な成果は、日本人なら見て、聞いて、触れて、わがものにすることができる。二一世紀の日本は、世界に輝く宝石である。

というこの歴史に残るひとは、日本語オリジナルでここに記された。なぜといって、新世紀一五年余を観察したうえで、現地でいちやく確認できたのが本稿だからである。

世紀初頭にすでにその姿を露わにしているものもあるが、なお原石のままのものも多い。それらの原石をこれから磨きあげて輝かせるのは、一人ひとりの日本国民の力である。

静かに前世紀に思いをいたせば、前世紀の世界大戦は世界各地に未曾有の戦禍をもたらしたが、この国にも広島・長崎の原爆投下を含む多大な傷跡を残した。

「国破れて山河あり」の思いを胸に、焦土に立った先人は、世界と将来に向かって戦争放棄を訴える「憲法九条」を掲げて国土復興にまい進し、九割中流といわれる「近似大同社会」をなすとげた。そして今世紀には平和であることの証として、誇るべき長寿国のさきがけとして登場している。

「長寿」は人間であることのそして人類としての普遍的な価値である。

だれもがどこでも生涯を通じて健康で安心して豊かにすごせることを願って暮らしている。しかし願っているだけでは新たな社会のしくみは成立しない。日本は二一世紀の長寿国（青少年・中年・高年「三世代」が平等の社会）としての姿を構想し、「憲法九条」とともに掲げて、努めて平和国家を達成すべき立場にある。

日本人の平均寿命は女性が八七・〇五歳、男性が八〇・七九歳。九〇歳まで生きる人の割合は男性二五・〇％、女性四九・一％。健康寿命の延伸もつづいている。

その成果は、食と衛生と医療と暮らしを便利にするモノと安心して休める住宅とみんなのためまぬ努力が総合してもたらされたもの。なにより重要な「食」は、世界中から食材が集まり、飽食といわれるほどに満たされて、首都東京の街筋には国際色豊かなレストランがたくさん店を開いている。「和食」は世界文化遺産に登録されて、訪れる観光客の人氣

を集めている。観光ばかりではなく、これからはさまざまな分野の国際会議やセミナーや芸術の上演・展覧や展示会が常日ごろ各地で催され、国際病院にやってくるリピーターや定住・永住者も多くなるだろう。

「一生に一度は行ってみたい国」のトップにあげられて、四季折り折りの富士や風景を眺め、温泉につかって疲れを癒し、和食を楽しみに世界中からやってくる人びと。迎える側の「お・も・て・な・し」の心は、優しい天恵である風物（祭りも）とともにある。

北欧の冬を際立たせる国際賞として有名なノーベル賞が、二〇世紀に引き続いて二一世紀も各分野への貢献をたしかなメッセージとして刻みつづけるなら、東亜のこの国からはなお重ねて医学・生理学賞、化学賞、物理学賞、文学賞の受賞者を出し、その上で世界中の国ぐにの民衆からスタンディング・オベーションを受けながら平和賞を受賞する日がくるだろう。そしてさらにはいつの日にか経済学賞も。その日のためには、本稿がここに掲げる「ニッポン発二一世紀オリジナル」を達成して、安定した持続可能な経済社会をつくり出し、日本発オリジナルの「経済原理」を紡ぎ出さねばならないだろう。

前世紀から明治、大正・昭和・平成期の今を生きてきたわれわれは、「三世代平等型」社会を確かなものにし、共にその成果を享受し、次世代と高齢化途上国の人びとのために「長寿社会」のモデル（成功事例）を築きつつある。

二一世紀の日本は、磨きあげて世界史のなかに輝く宝石であらねばならない。